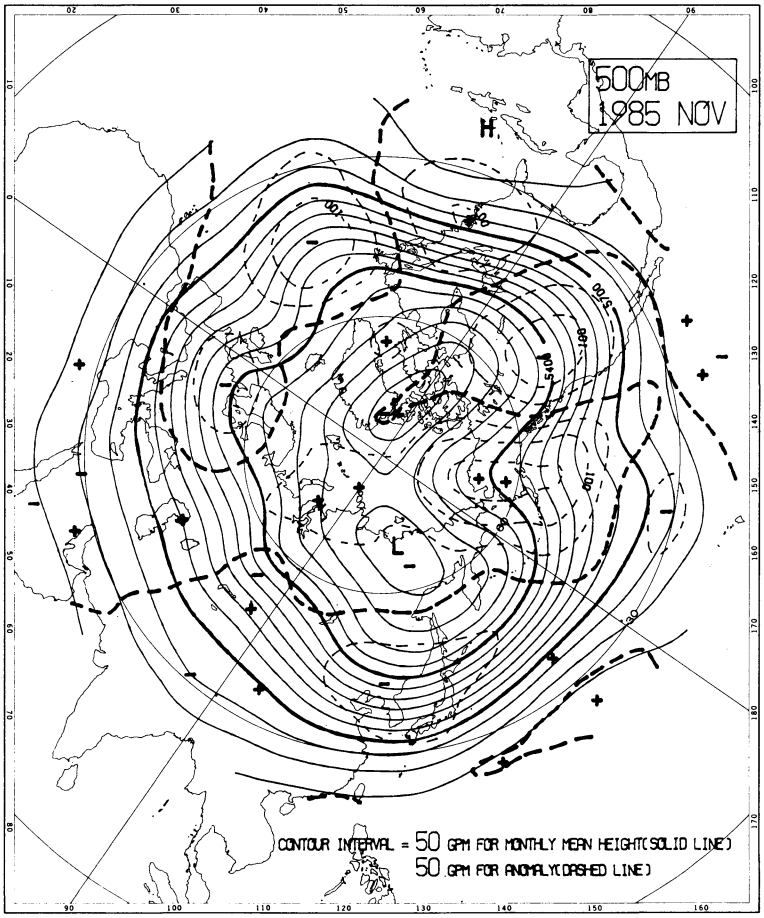
NEWS

月平均500mb 天気図．1985年11月

（破線は平年からの偏差．単位m）



アラスカでブロッキング

今月の特徴は，第2象限(90°～180°E)，第3象限（180°～90°W)に大きなメアンダーが見られることである．アラスカの正偏差は標準偏差の3倍，日本付近とカナダ西部の負偏差及びアメリカ東部の正偏差は，それぞれ標準偏差の2倍を越えている．

各象限別の東西指数(40°N と60°N の高度差，南北蛇行の目安)で見ると，第2象限が1946年以来の低指数（東西指数が平年より低い状態)の第4位，第3象限が同じく第1位である．このため半球的な東西指数も低指数の第2位となっている．

このような南北の激しい蛇行は，月の後半の特徴を反映したものである．月の半ば頃アラスカに起こったブロッキングによる強い正偏差は，その後極に向かい，月末には極付近全体が正偏差に覆われてしまった．

日本付近は，すっぽりと－50mの負偏差に覆われているが，月平均気温は西日本で平年より低いものの，平年並の範囲におさまっている．

冬期，日本付近に寒波をもたらす大規模場には，2つの重要な要因がある．今月はその一方の要因であるアラスカ付近のリッジ場が現れた．もう一方の要因である90°E付近のリッジ場が存在すると，強力な寒気流入が決定的となるが，どちらか一方のみの時は寒気流入しても2ヵ月にわたるような持続性がない．

（長期予報課　河原幹雄）